



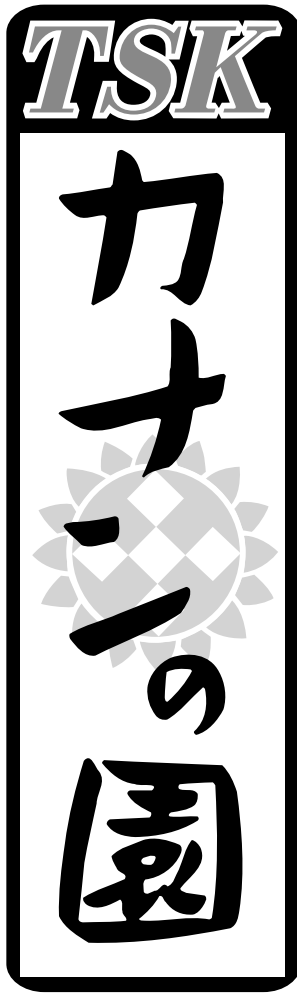
岩手の福祉の歩みとカナンの園への期待 —これまでの出会いに感謝して

北上市民生委員・児童委員 松岡静久

47年間ほど関わった障がい分野から離れ、2年ほどが経過しました。今は、100年以上前から続くわが国のソーシャルワークの先駆けとなった民生委員として、生まれ育った地区で訪問にこだわり活動しています。これまでを振り返ると、ご本人、ご家族、支援者等多くの方との出会いから学び、モチベーションを保てたと思えます。

カナンの園を知ったのは、千葉県で働き始めた1972年の新聞記事と記憶しています。その後、岩手に戻り、徐々に県社会福祉協議会や県精神薄弱者愛護協会(現在の知的障害者福祉協会)の活動に参加してきました。その間、カナンの園の施設内研修会で職員の方とお会いし、自前の牛乳をこちそうになったことも思い出です。

代に本庄義雄さんが北海道での実践をモデルに施設職員会や400人規模で行われた施設職員総参加研修会は、多くの県内施設職員の質の向上と出会い・つながりを生むことになりました。受け身の研修でなく参加型研修は大きな取り組みでした。その後行われた施設職員全国研修会の役割分担につながり、その際の県協会の積み立て金の一部が、現在の施設職員研修費助成となりました。その後、障害者相談支援事業に関わり、県内、東北全国の方々と出会うことができました。カナンの園との親交の深い伊達的小林繁市さんとも出会い、カナンの園のお話を聞き、多くのご教示もいただきました。また、2011年の東日本大震災の際も、全国の多くの方との出会いや支援も頂戴しました。特に印象的なことが、全国の育成会や



136

No.136
発行日/2022年3月15日
編集/社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町
中山字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

編集者 社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七 ☎0195-361-0266

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会(略称TSK)
〒981-0907 宮城県仙台市青葉区高松二丁目四一〇 郵便番号

●お知らせ

●郵便局払込み取扱票による手数料のお知らせとお願い

ゆうちょ銀行では現金を使った支払い、払込みにおいて、2022年1月17日より一部で手数料がかかるようになりました。これまでは、払込み取扱票(手数料受取人負担:赤い字の用紙)にて送金する場合は、手数料はカナンの園で負担していましたが、改定後は現金にて送金する場合、窓口・ATMで手数料110円を支払うか、手数料を差し引いた額を送金するか、どちらかを選択していただくことになります。前者の場合は、皆さまの負担が増えることになり、後者の場合は、カナンの園からの領収証は、手数料が減額された後の領収額の記載となります。ご自身の口座から通帳・カードを利用して送金される場合は、110円の手数料は必要ありません。どうぞご了承下さいようお願い致します。

料金受取人負担票利用	窓口・ATM	通帳・カード扱い手数料	0円
		現金扱い手数料	110円

あとがき
136号の発行となりました。12月に企画(テーマ)を話し合ってしまった。今回のテーマは「みんなのカナン」。私たちのつながりを今一度確認したいと考えました。テーマは、それぞれの現場に持ち帰り現場の歴史、今、将来から記事を考えます。この2つの作業過程だけで、理念、支援の背景、つながり等さまざまなことを確認する機会になっているように思います。その後、原稿を依頼する方を決め、依頼。今回は、カナン外部の方への依頼が多く、依頼すること自体が大切な機会であると思えました。1月末には、原稿が出揃い、その後、編集作業をしていきます。

編集の作業は「伝える」「伝える」ということをたくさん考えさせられる作業です。私たちの支援に同じことがいえます。伝えたいことと伝わっていることの違い、相手に合わせる。相手を知ることを、いつも問われているように思います。印刷された後は、事務局中心にボランティアにも手伝ってもらいながら発送の準備。そして今、皆さまの手に届き読まれています。たくさんの方の協力を得て、皆さまにメッセージをいただき励ましてもらったしながら、大切にすることを確認することが出来ます。今後とも考えては発信し、皆さまからの声をいただき、また考え。この繰り返しで成長していきたいと思えます。

(岡崎俊彦)

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌カナンの園に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せ下さい。

カナンの園法人事務局

〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山
字大塚4番地7
TEL 0195 (36) 1026
FAX 0195 (36) 1027
郵便振替 02330-6-6631
ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

本誌は再生紙を使用しています。

Scope & Spot



三愛学舎では、友だちと出会い仲よくなり、マラソン仲間ができ、鉄道仲間もできました。三愛で学んだことは、相手の人への優しさや言葉遣いやあいさつなどです。5年間応援団でよかったです。応援団長は、全力プレーや全力投球などの全力さがなくなれないなと思いました。専攻科2年は、学級委員長、同級生に支えてもらえたから役割を成功できたと思います。就労移行で利用したとなんカナンでは掃除やイベント販売に行かせてもらえてよかったです。今は他の会社で正社員を目指しています。三愛の生徒皆さんを、応援続けます。後輩の皆さん、目指す先に向かって全力で頑張れ!! 応援しています。
(三愛学舎卒業生 小鳥谷真)

社会福祉法人カナンの園

福祉型障害児入所施設 奥中山学園
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
多機能型事業所 ゆいまる
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
多機能型事業所 小さき群の里
☎0195-35-3080 FAX 0195-35-2780
共同生活援助事業所 ののさわ(グループホーム1~6)
☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405
生活介護事業所 ヒソプ工房
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
共同生活援助事業所 HANA(盛岡地区グループホーム1~6)
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
特定相談支援事業所 らばーる
☎019-656-6863 FAX 019-656-0553
生活介護事業所 シャローム
☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884

就労継続支援B型事業所 ウィズ
☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121
就労継続支援A型事業所 カナン牧場
☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145
共同生活援助事業所 美空(グループホーム1~10)
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
居宅介護事業所 れもん
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
障害児相談・特定相談支援事業所 むつび
☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3840
多機能型事業所 となんカナン
☎019-681-3004 FAX 019-637-2601
カナン市場(カナンの園商品一括取扱所)
☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

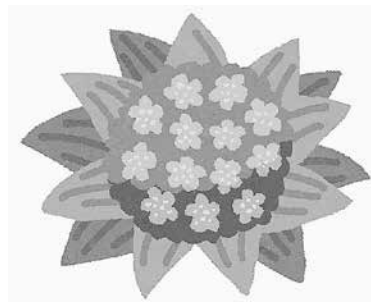
学校法人カナン学園

三愛学舎(特別支援学校高等部・知的)
☎0195-35-2231 FAX 0195-35-2781

特集

「わたし」と「みんな」と つながるカナン。

コロナ禍が続き、人に会う機会が減り、人と人、人と社会とのつながりを感じづらくなっています。こうした中で、利用者の皆さん、地域やご家族の方々とカナンは、どんなふうにつながっていただければいいのか。私たちが進むべき明日を照らす灯りにさせていただきたいと考え、皆さんからメッセージを頂戴しました。



次男文博は、8歳でゆいまるの前身、その後、奥中山学園、三愛学舎、そして現在小さき群の里、ののさわ事業所とほぼカナンの園にフルコースでお世話になっていきます。カナンの園なくして文博の人生、私共家族の平穏な生活はありません。カナンの園への期待は唯一つ、未来永劫続いてほしい。障がい者、その家族、そして全ての人を照らす光として。（ののさわ事業所 保護者 小原暁子）

こんにちは！ と笑顔で始まるピアノ教室。いつも通りに始まるレッスン。日々の生活の中に、ピアノ（音楽）がいつもそばにあることの喜び。カナンの園との出会い。るんだるんだやクリスマス会などに参加させていただき、みんなの笑顔に癒されていました。これからも、音楽と共に皆さんと一緒に楽しんでいきたいと思っています。ありがとうございます。（山本ピアノ教室 山本範子）

奥中山高原駅でカナンの園の利用者さんや三愛学舎の生徒さんを出迎えたり見送りしたりするようになって12年となります。毎朝、元気な顔を見せてもらうことが日常となっていることに慣れてしまい、長期休業、土日等は待合室のにぎわいがなく、寂しく感じるものです。これからの場所で皆さんの見守りを続けていけるようにしたいと思っています。（奥中山高原駅係員 中嶋征子）

妹は、三愛学舎専攻科の1年生。入学前は不安もありましたが、学校での出来事を楽しそうに語り、日々たくましくなる妹の姿を見て三愛学舎に入っ てよかったですと心から感じています。先生方の日々のご指導、ご支援に大変感謝致します。カナン祭では、生徒の皆さんが個性を尊重し合い一緒に楽しむ姿、先生方や保護者の方々がその姿を温か

ヒソプ工房さんにポスティングのお仕事をお願いして11年。たくさんの配布をしていただき、私たちアドポス事業の強力な仲間として活躍していただいております。猛暑の夏も厳寒の冬もお力添えをいただき本当に感謝申し上げます。（株式会社アオバヤ アドポス盛岡センター センター長 八幡浩子）

今年、奥中山高原駅が開設されて130年、当店の歴史でもあります。カナンの園が来られて約50年、まだ蒸気機関車の走る時代でした。今は人口減少が大きな社会問題ですが近年多くのグループホームが建ち、この地の脱過疎化に寄与されているカナンの園の存在に感謝しております。（上山本店 店主 上山文雄）

私の仕事は食堂をやっています。利用者さんと職員の方で食事に来てくれます。自分の好きなものを選んで食べています。職員の方は「よくかんで、ゆっくりね」と声を掛けながら食べてます。終わると「おいしかったよ」「ごちそうさま」と言ってくれます。うれしいです。いつもありがとうございます。（立花食堂 立花キク）

当館「風のデッキ」で開催した「カナンの園シャローム作品展」では、ご協力いただきありがとうございます。ダイナミックな紙粘土作品やかわいらしいタッチの絵画など、どれも個性輝

利用者さん。裏方で奮闘する職員さん。本当に毎年感動と勇気をいただいています。早くコロナが終息し、皆さんのカラオケ大会でのあの盛り上がり、満面の笑顔に会える日を楽しみしております（ヒソプの旅行を手伝って下さる日 本旅行東北盛岡支店 佐藤久志）

ヒソプ工房に実習に行ってみて、言葉掛けや作業場の配置などさまざまな工夫がされていて、利用者が職員のことを信頼しているのが伝わってくる、とてもアットホームな施設だと感じました。（実習生 盛岡医療福祉スポーツ専門学校 こども未来学科2年 武田悠那）

サンライフ盛岡での販売は、9年目になります。おいしいお菓子と販売員の皆さまのステキな笑顔に、当館職員や利用者のファンが大勢おります。コロナの終息を祈り、次の販売日を心待ちにしております。（ヒソプ工房のお菓子の販売先 サンライフ盛岡 野村美穂子）

障がいのあるなしに関係なく仕事や生活がしやすい社会になってほしいと思います。献金活動に取り組みまで「カナンの園」のことを知らない生徒も結構いましたので、広く知ってもらってこれからも応援したいです。（募金活動をして下さった盛岡スコール高等学校

く素敵な作品で、思い思いに制作を楽しんでる様子が伝わってきました。作品展を見た来館者の中には、親子で楽しそうに会話をしたり、足を止めて見る子どもたちの姿が見られました。これからも、シャロームの皆さまの制作活動を応援しています！（県立児童館 いわて子どもの森 プレリーリダー 佐藤星河）

婚約、結婚とみことばせんべいをご準備下さり本当にありがとうございます。証の時となったと思っております。皆さんの作って下さったサブレが本当に大好きです。いつか2人で訪問させて下さい。お会いできる日を楽しみにしています。（武林慧・美春）

現在51人の子どものためにぎやかな声が響く奥中山保育所は、カナン牧場のおいしいパン耳やケーンの森でおなかを満たし、三愛学舎さんのかわいいお花を花壇に植えて心を癒し、るんだるんだ祭りでは心躍らせ、2月の鬼にはリアル過ぎておびえを覚え（笑）、1年を通して、子どもたち、職員と五感を刺激していただいています。これからも奥中山保育所のことをよろしく願います。（奥中山保育所 所長 大和田留吏子）

20年近く前になりますが、自然食品

生徒委員長 中村佳乃）
となんカナンの会場を借りて社会福祉協議会で開催している中間就労の場に、カフェのスペースをお借りしています。これからも地域の活動拠点として地域に根差した活動を一緒に行っていきたいです。（盛岡市社会福祉協議会 藤澤佳代）

当店は軽食&喫茶、販売を会員を中心に運営しているお店で、開店から25年目を迎えました。「カナンの園」は憧れの存在で、何度か見学させていただきました。カナンのパンは糖、油脂、乳製品不使用で、この製法を守り続けて49年。お客さまにも自信を持って勧めたいです。昨年、盛岡にオープンした「CANZAN」。カナンの理念が凝縮された店にみんなで行きましょう！（ふれあいポケットわたぼうし 店長 伊藤ケイ）

カナン牧場はブレずに変化。「今ね、奥中山に障がい者施設を建てよう」と活動しているの」と話して下さったのは、小学1・2年担任だった猪苗代美智子先生でした。「盛岡につくるの」とおっしゃったのも…。50年以上も昔になりました。カナン牧場はブレずに変化、いや「進化」これからも。（盛岡市ファーム仁王施設長 利府みちる）



店のお客さまの一人が自分の通っている教会でパンの販売をしていると、そのパンがおいしいので秋本さんのお店でも販売してもらえませんか？ と言われたのが縁でカナンの園、カナン牧場のパンを知ることになりました。その彼女から紹介を受けて販売することに至ったのです。

私の店は、注文を受けて商品をお客さまに届けるというシステムです。よってお客さまをたくさんとることができず、せいぜい20軒くらいです。そのお客さまにカナンのパンを紹介したところ、おいしいと評判になり皆さまに食べてもらうことになりました。

どこの高級なパンよりもカナンのパンが一番おいしいと自負しています、揚げないカレーパン・あんぱんのおいしいこと！ 山型食パンは定番のパンです、なんと重いこと！ パンと共に入っている用紙に描かれているイラストがかわいー！！ いつも癒されています、いつもありがとうございます。遠く岩手から届くおいしいパンに感謝です。（個人販売店 ばらそる 秋本直美）

通信欄のひとことに

事務局長 薄正仁



創立50年目を迎えたカナンの園の大きな特徴は、創立当初から全国の多くの方々に物心共に支えていただいていることにあります。寄付の払込み票だけでも年間1500通ほどになり、その中には、法人の設立当時の方々やキリスト教関係者、学校や幼稚園、利用者とご家族、退職した職員など多岐にわたります。福祉制度

は大きく変わり、昨今のコロナ禍にあっても「誰かのために。社会をよくしたい」との願いはそう簡単に消えてしまうものではないと、日々勇気をいただき力付けられます。

払込み票の通信欄のほんのわずかなスペースに、小さな字で心温まるメッセージを書き込んで下さる方がいらっしゃいますので、最

近のいくつかをご紹介します。
・ 厳冬に加え、コロナ禍の第6波と困難が多いと思います。主のお守り豊かならんことを祈りつつ。
(東京)
・ これからも皆さんの働きが支えられますようお願いしています。お体に気を付けてお過ごし下さい。
(福井)
・ 園児のクリスマス献金の一部ですが寄付致します。皆さまの働きのためお役に立てれば幸いです。
(神奈川)
・ 皆さまの働きに対し、何時も尊敬の念をもって過しております。また、仕事を通してカナンの園とご縁ができてうれしくてなりません。そして、娘の障害を受け入れて数年。カナンの園の存在の大きさを改めてかみしめています。感謝です。(岩手)
・ いつも会報を送って下さり、ありがとうございます。少しですがお役に立てばうれしいです。応援しています。(東京)
・ 今年も大変お世話になりました。娘も寒い中仕事と生活を楽しみながら元気で過

ご紹介いたします。今年も残り少なくなっておりますが、皆さまよいお年をお迎え下さい。(岩手)
・ 当方90を過ぎ、老齢のため諸事思うように動けず、今回の献金をおままして最後の献金とさせていただきます。(神奈川)
・ 母は5年前に亡くなりました。母の代わりに最後の送金をします。(埼玉)
・ いつも尊いお働きをありがとうございます。遠方よりお祈りを続けています。(北海道)
・ 昨年末、主人が亡くなりました。主人の遺志により新校舎建築に寄付させていただきます。(千葉)
以上、ほんの一部のご紹介です。私たちはこのような皆さまの尊い思いに比べられるよう背筋を直し、日々自問自答しながら創立の理念の実現への歩みを進めたいと思います。
いつも、お支えいただき本当にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

特集

「わたし」と「みんな」とつながるカナン。

障がい支援の枠を超えて

カナンの園の皆さまには当センターの活動にご協力をいただき深く感謝しております。私自身も在宅支援のコーディネーターとして盛岡地域で通う先のない方々の受け入れや家庭で抱えている問題と一緒に向かい合っていたきました。

家族が緊急で入院された家庭に見守りのために、ヒソプ工房の職員の方々と交代で泊まり込んだのは忘れられない思い出です。それから20年近く経ち盛岡の地域も時代と共に大きく変化し、数的にも内容的にも障がいに関わる地域生活支援のサービスが増えました。しかし、同時に質的に違ったニーズ(例えば精神疾患・発達障がいなど)や生活困窮や家族問題など複合的課題の方々の割合も急増し、抱えている課題



やニーズによって支援の有無や選択肢に大きな格差があり、障がいの枠だけでは支援が困難となっています。

盛岡地域においてカナンの園の方々には理念をしっかりと持ち、変わり続ける当事者の様子に応じて支援を考え、つくり続け事業所の枠を超えた地域支援をリードしてきた存在です。今後はますます、障がい支援の枠をも超え現在の地域が抱える課題解決に生活支援の実践を通じて連携・牽引していただけることを期待しております。(盛岡市基幹相談支援センター所長 工藤宏行)

家族もまた支えられ

わが家とカナンの園との関わりは、長男がみたち支援学校奥中学校中学部に入学した2008年の秋頃に奥中山学園に入寮してからです。息子は現在、まきばホームで生活し、エフラテ(空き

缶のリサイクル作業所)に通う毎日、人生の半分をカナンで過ごしていることになりました。
私は、地元の町役場職員に採用直後福祉分野を経験しましたが、息子を持つ前までは、自分や家族が福祉の世話になるとは想像もしていませんでした。障がいの子を持ったときは、福祉の世話になることや、他人を頼ることへの後ろめたさを感じていましたが、今はすっかりカナンの園の皆さんに頼りっぱなしです。

そんな私は現在、再び福祉分野で仕事をしており、カナンの園職員の方とも関わりがあるのですが、知らない間柄ではないことで助かる場面が多いと感じています。

カナンの園は多くの人に頼りにされ、それに応えていただいています。カナンの園に期待することを書いて下さいとありましたが、逆に、カナンの園は当事者だけでなくその家族も支えているという自信を持って、これからも私たちを見守っていただきたいと思っています。(のさわ・小さき群の里 利用者保護者 片野修)

カナンの園で受け取ったもの

私は3年前、大学1年生の夏にカナンの園を訪れました。小さき群の里の「丘の家」で寝泊まりしながら、1週間

にわたって利用者の方・職員の皆さんと共に作業や交流をし、とても豊かなときを過ごさせていただいたことを今も思い返します。
大学に入学して間もない時期だったあのときの私は未熟で、利用者の方と関わりを持つときにも「自分はいまよく振る舞っているのか」と、自分のことで精一杯になってしまっていました。今振り返ってみると「言葉ではない部分」で目の前の相手とつながりを持つことの、難しさ大切さを思います。

自分に見えている世界の現実が、どんな人にとっても真実であるわけではないことに、自覚的でないければならないと感じます。目の前の利用者さんがどのように物事を受け止めて、どんなことを感じているのか。それを100%分かることはできなくても、想像力を持って、少しでも心を寄り添わせること。このことはどんな他者と接するときにも、必要な心構えなのではないかと思うのです。

4月から社会人になりますが、カナンの園の存在はこれからも私の心のどこかにあり続け、忘れてはいけないことを思い出させてくれるだろうと思います。カナンの皆さまが、変わらず豊かな日々を重ねていきますことを、心から願っております。(立教大学社会学部 4年 中村こはる)

私はカナンの園で働いてもうすぐ9年になります。そのうち9年間は生活介護事業所のシャロームに所属していました。失敗もたくさんあり、新人の頃は3日に1回は心が折れていたような気がします。皆さんと一緒に働いたり、ご飯を食べたり、散歩したり、何気ない日常を過ごすうち、自分の心の何かが動かされ、変化して、今の自分があると感じます。

10年前、新職員として初めてMさんに出会ったとき、とてもプレッシャーを感じたことを覚えています。当時のMさんは、服用していた薬の影響から、頻繁に強いこだわりと興奮等の様子が見られました。

調子の悪い日は数時間シャロームのホールを歩き続け、時折大声を出して走り出す彼の背を追い、止めようとする叩かれ。という日々でした。それでも、調子のいい日はにっこり笑って手をつなぎ、全身で関わりを求めてくる彼の姿に、仲良くなれたような気持ちにさせてもらいました。とにかく必死な日々でしたが、この仕事の楽しさを感じられる瞬間でもありました。



中央に見えるのが三愛ギャラリー。

建て方工事始まる

約3カ月かけて行われていた基礎工事が完了し、12月から集成材軸組み建て方が始まりました。基礎だけでは分らない空間が立体的にイメージできるようにになりました。三愛ギャラリーと名付けたエントランス部分には5メートルの柱が5本並び、圧巻の大空間となります。自然の光と風、そしてコミュニケーションが通い合う、吹き抜けの空間となります。使用する木材は、秋田県大館市の木材集成材工場加工されたものです。

ことばひろい 第34回

あなたが変わったんだよ。

生活支援センター主任
菅原光樹



ある研修会に参加したとき、思いがけずMさんとの関わりを振り返る機会がありました。講義の中で「障がいを持った人たちは「困った人」ではなく「困っている人」という言葉が出てきました。それまでも何度か聞いたことのあるフレーズでしたが、時間が経つほどになぜかヒリヒリと身に染みて、いたたまれない気持ちになりました。

私はMさんのことを「薬のせいだからしょうがないけど、毎日こだわったり興奮したりする困った人」と心のどこかで捉えていたことを、そのとき初めて、痛烈に自覚しました。

Mさんがずっと抱えてきた悲しみや寂しさ、環境や人が変わることへの不安や緊張を汲み取ることもできず、た

12月からかなりの降雪がありました。が、奥中山という極寒の中、建築に携わっていただいている工事関係者の皆さんに感謝です。

生徒の皆さんからの声

建て方が始まり、新校舎をイメージできるようにになったことで、生徒の皆さんから期待を寄せる声が聞こえてきました。紹介します。

「新築物件みたい！」「更衣室は広くなりますか」「教室が暖かければいいな」「保健室は大丈夫ですか。今の保健室には、ベッドが1つしかなく、狭く、職員室から先生の話し声が聞こえます」「新しい学校ができるのが楽しみです。体育、音楽とか授業が楽しみ」「きれいでステキな学校になってほしい」

この間、多くの皆さまから多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。今後も進捗状況を機関誌、本校のホームページ（※）でご紹介します。

（三愛学舎副校長 岩崎崇）

※<http://sanagakushanet/>

〔工事概要〕	
(1) 敷地面積	25,395.25㎡
(2) 延床面積	1,476.50㎡
(3) 構造	木造平屋建て
〔工事進捗状況〕	
2021年12月	集成材軸組み建て方
2022年3月	外壁・屋根
5月	内装・仕上げ
8月	竣工予定



コンクリート打設。足場組み立て・集成材軸組み建て方開始。



建築の様子を眺めながらクロスカントリースキー。



雪深い中、予定通り工事が進められています。

だ彼の心の大きさに甘え、分かったような気になって思い上がっていた自分に無性に腹が立ち、恥ずかしくなりました。出会ってから数年経ち、Mさんも安定した日々を過ごせるようになり、よく笑ってくれるようになりました。「もりなが」「チョコボール」「ポテトチップス」など、好きなお菓子の名前を話してくれたら、トトロの「さんぽ」を口ずさみながら散歩したりしました。楽しくなると顔をクシャクシャにして笑って、肩を組んでくれました。

そんなふうにMさんと一緒に過ごしていると、不意に胸や目頭が熱くなる。それが何度もありました。当時の上司にその話をすると「彼は何も変わっていないよ。あなたが変わったんだよ」と言ってもらったことを今も覚えています。

昨年4月に生活支援センターへ人事異動となり、Mさんと毎日顔を合わせることになりましたが、今も月1回短期入所のお会いします。相変わらず顔をクシャクシャにして笑って肩を組んでくれて、自分の心が動くのを感じます。

この仕事は、人と出会って自分とも出会い直すことができる仕事だと思っています。失敗して3日に1回心が折れたとしても、何気ない日々の中でたくさん笑って、感動して、つくり変えられて、今自分にできる働きを地道に続けていきたいと思っています。